三昧塚古墳（行方市）

南側から見た三昧塚古墳/前方後円墳/5世紀後半の築造/楯形の周溝が巡る

説明坂が立っている

霞ヶ浦沿岸地域では、勅使塚古墳の出現によって幕を開けた古墳文化は、三昧塚古墳・権現山古墳、そして大日塚古墳と築かれ沖洲古墳群が形成されていった

行方市指定文化財（史跡）

三昧塚古墳

所　在　地　行方市沖洲四六七番地一ほか
指定年月日　平成二年八月二十三日

三昧塚古墳は、鎌田川流域の沖積低地に築かれた、全長八十五メートル、後円部径四十七メートル、前方部幅三十六・五メートル、後円部高さ八メートル、前方部高さ六メートルの規模をもつ（現在の墳丘は半分以上削平）、五世紀後半に築造された前方後円墳である。

金銅製馬形飾付冠（茨城県立歴史館蔵）

昭和三十年、築堤用の土砂採取工事により、古墳の一部が壊されたことをきっかけとして緊急の発掘調査が実施された。墳丘には、円筒埴輪が三重にめぐり、後円部の中心には、墳頂下二・七メートルに箱式石棺が置かれ、伸展葬の形で遺骸が埋葬されていた。副葬品としては、金銅製馬形飾付冠・金銅製垂飾付耳飾・変形四神四獣鏡等があり、ほかにも竹櫛・玉類・剣・戟・甲冑（短甲）・円筒埴輪・形象埴輪（人物・鹿・牛・犬）など遺物が出土している。

また、三昧塚古墳保存整備基本計画及び史跡公園の整備に先立ち、古墳の規模、墳丘の構造、周溝の規模など基礎的な資料を得るため、明治大学考古学研究室の協力の下、三昧塚古墳の第二次、第三次発掘調査も実施されている。

勅使塚古墳の出現によって幕を開けた当地域の古墳文化は、三昧塚古墳・権現山古墳、そして、大日塚古墳と築かれ沖洲古墳群が形成されていった。なかでも霞ヶ浦沿岸地域では群を抜いた規模と豊富な副葬品を持つ三昧塚古墳は、当時の古墳文化を考察する上で重要な遺跡となっている。

平成二十四年三月
行方市教育委員会

復元模型が置かれている

三昧塚古墳保存整備

歴史的文化遺産である三昧塚古墳を後世に伝えるため、築造当時の姿に復元することを基本とし、明治大学考古学研究室協力の下、平成１６年度～１７年度に事業を実施した。

現況墳丘には、保存用のネットを張り、水平層状に版築盛土を繰り返し行い整形復元した。この時、現存部分周囲は人力で、欠損部分は機械で施工した。

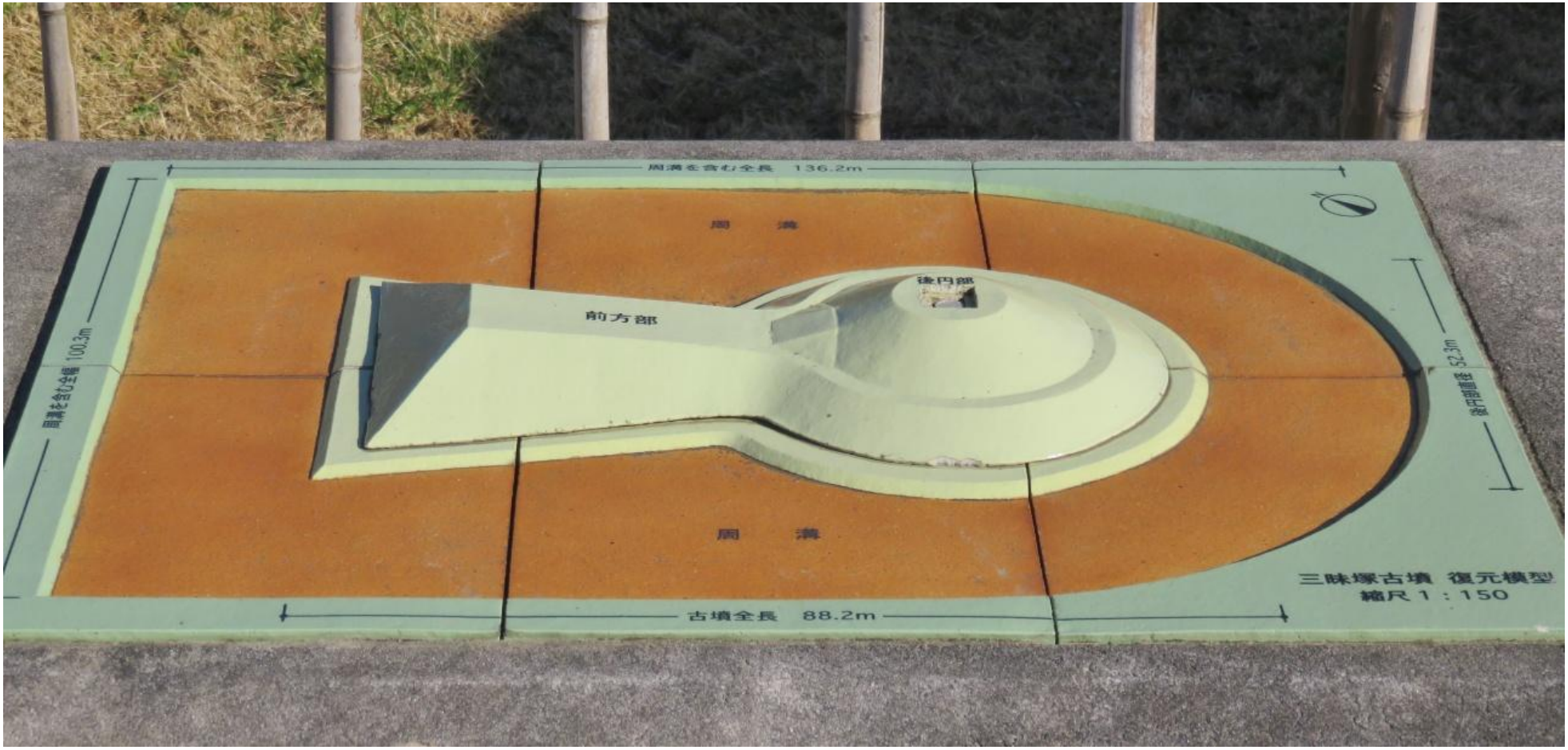
墳丘表面については、芝により保護及び仕上げを行った。

後円部墳頂には、昭和３０年に発見された埋葬主体部の状況図を白磁陶板により表現し、見学用通路として石段を設置した。

復元整備した墳丘の規模は、基段を含む全長88.2m、後円部径52.3m、前方部幅46.6m、後円部高8.0m、前方部高7.0mとした。段築は、後円部２段、前方部１段とし、基底面には基段を設けた。

傾斜は、後円部１段目１：1.７５（約29.8°）、２段目１：２（約26.6°）、前方部１：1.5（約33.7°）とした。

行方市教育委員会　平成１８年３月


周溝を含む全長 136.2m
周溝
後円部
前方部
周溝を含む全幅 100.3m
後円部直径 52.3m
周溝
古墳全長 88.2m
三昧塚古墳 復元模型
縮尺 1：150

後円部から前方部方向を見たところ

そこから右手の後円部を見たところ/周溝の雰囲気が感じられる

南東側から後円部を見たところ

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ

これは東側から全景を見たところ

同じく北側から全景を見たところ

同じく西側から全景を見たところ

これは北西側から前方部を見たところ

さて、これは前方部の墳頂に登って後円部方向を見たところ

そこで左手を見たところ

同じく右手を見たところ/霞ヶ浦が見える

振り返って北西方向を見たところ

さて、これは後円部墳頂から前方部方向を見たところ/後円部上には出土状況を示したパネルが設置されている

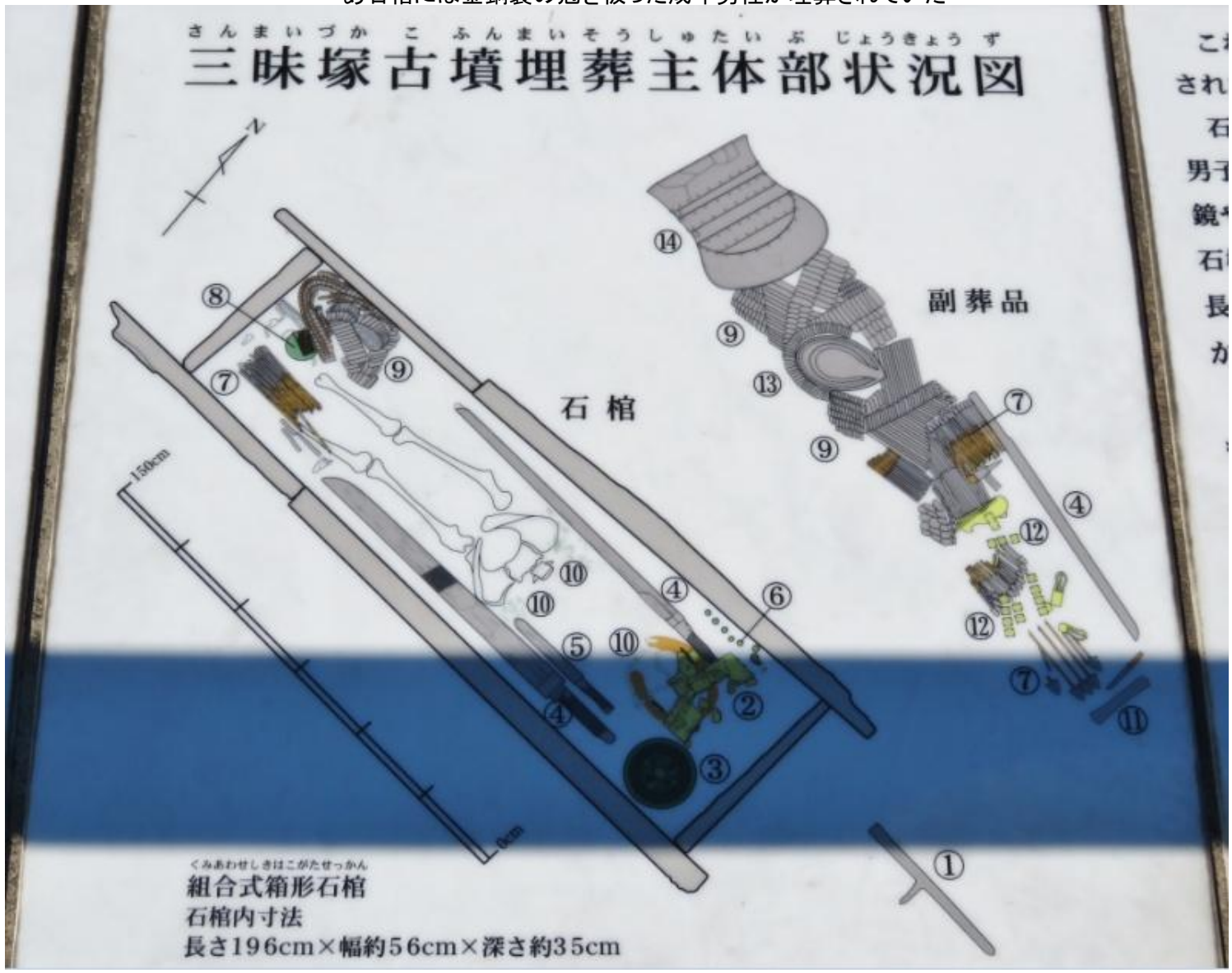
くびれ部を見下ろしたところ

そこで左手を見たところ

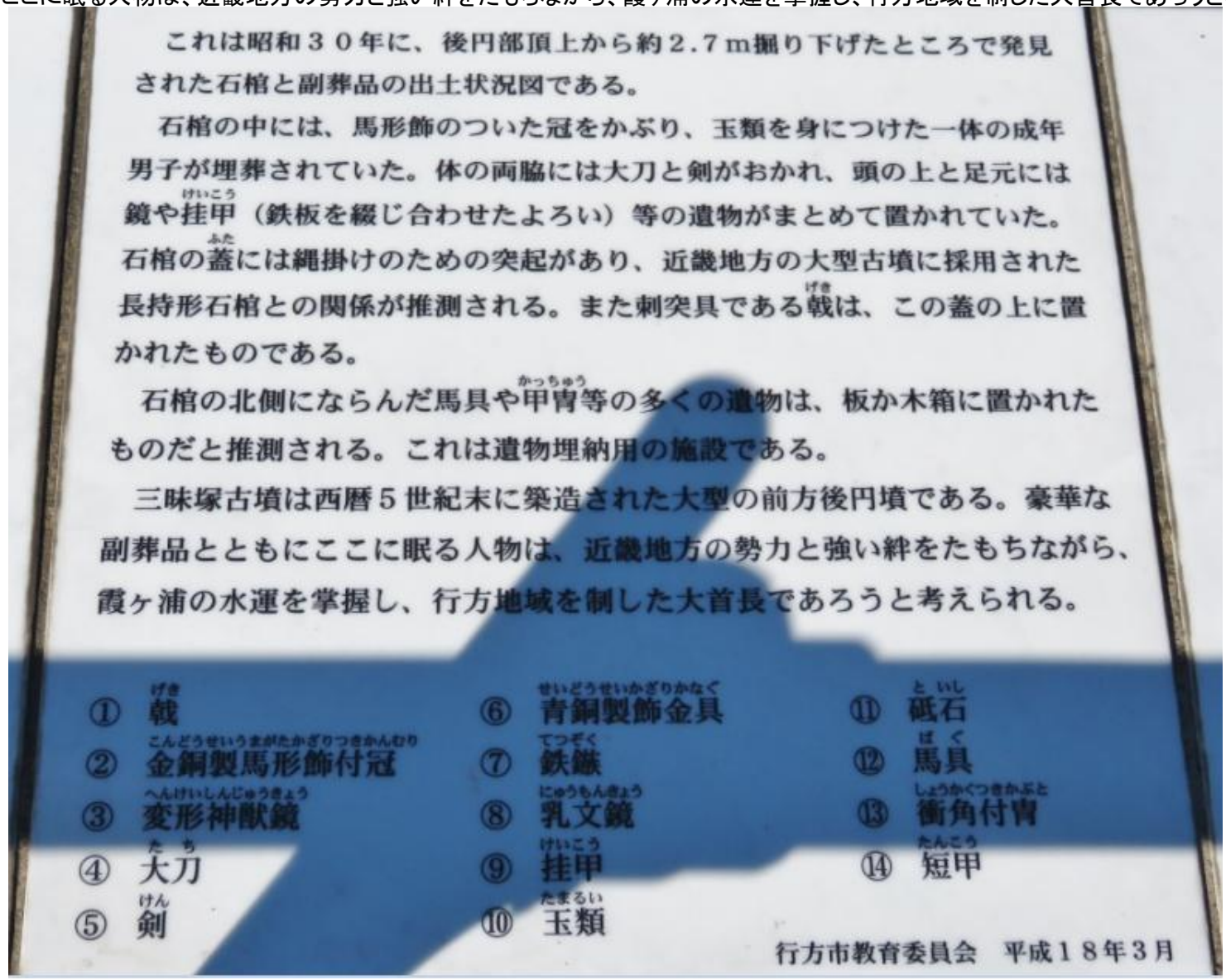
同じく右手を見たところ

これが出土状況を示したパネル

あ石棺には金銅製の冠を被った成年男性が埋葬されていた



ここに眠る人物は、近畿地方の勢力と強い絆をたもちながら、霞ヶ浦の水運を掌握し、行方地域を制した大首長であろうという



これは昭和３０年に、後円部頂上から約２.７ｍ掘り下げたところで発見された石棺と副葬品の出土状況図である。

石棺の中には、馬形飾のついた冠をかぶり、玉類を身につけた一体の成年男子が埋葬されていた。体の両脇には大刀と剣がおかれ、頭の上と足元には鏡や挂甲（鉄板を綴じ合わせたよろい）等の遺物がまとめて置かれていた。石棺の蓋には縄掛けのための突起があり、近畿地方の大型古墳に採用された長持形石棺との関係が推測される。また刺突具である戟は、この蓋の上に置かれたものである。

石棺の北側にならんだ馬具や甲冑等の多くの遺物は、板か木箱に置かれたものだと推測される。これは遺物埋納用の施設である。

三昧塚古墳は西暦５世紀末に築造された大型の前方後円墳である。豪華な副葬品とともにここに眠る人物は、近畿地方の勢力と強い絆をたもちながら、霞ヶ浦の水運を掌握し、行方地域を制した大首長であろうと考えられる。

① 戟
② 金銅製馬形飾付冠
③ 変形神獣鏡
④ 大刀
⑤ 剣
⑥ 青銅製飾金具
⑦ 鉄鏃
⑧ 乳文鏡
⑨ 挂甲
⑩ 玉類
⑪ 砥石
⑫ 馬具
⑬ 衝角付冑
⑭ 短甲

行方市教育委員会　平成１８年３月

一段下りて後円部から前方部方向を見たところ

もう一段下りて見たところ

反対側で後円部から前方部方向を見たところ

同じく一段下りて見たところ

反対に前方部から後円部方向を見たところ

反対側で前方部から後円部方向を見たところ

北東側から見た全景/沖洲集落付近に存在する諸古墳は全て台地上にあり、沖積低地にあるのはこの三昧塚古墳だけらしい

参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/namegata_sanmai/

http://www.rekishinosato.com/sanmaizuka.htm

https://ibamemo.com/2017/01/07/kohun/

https://namegata.mypl.net/mp/history_namegata/?sid=51670

http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/bunkazai/ken/kouko/7-20/7-20.html

https://ameblo.jp/titanharios/entry-11376395555.html

http://mahoranokaze.com/blog-entry-2621.html

小美玉市
石岡市役所
石岡
高浜
防衛省航空
自衛隊百里基地
ダイヤグリーン倶楽部
玉造ゴルフ倶楽部
捻木コース【PGM】
玉造ゴルフ倶楽部
若海コース【PGM】
かすみがうら市
浦ふれあいランド
行方市役所
常磐自動車道
常磐線
355
7
59
8
144
221
141
194
118
360
359
50
18
116
354
Google
地図データ ©2018 Google、ZENRIN　日本　利用規約　フィードバックの送信